

年末市長訓示

平成28年12月28日（水）午後1時
本庁舎8階 大会議室A

平成28年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんにお話しします。

今年は、新津市誕生10周年の年でした。1月16日には記念式典を開催し、これが年の幕開けでありました。10年前、新津市開市式においてテープカットを行っていただいた10人全ての市町村長様がお揃いで舞台の中央に並んでいただきました。各市町村議会で心血を注いで合併という非常に困難な方向に向けて真摯に御議論いただいた議長様、その他多くの関係者の皆様にお越しいただき、大変感慨深い式典となりました。

10市町村の誇りを持って志高く成し遂げられた合併という偉業を受けて、今の津市の行政を担う私たちとしては、改めて志を受け継いだという認識をしっかりともう一度持って市民の幸せのためにやるべきことを全身全霊で取り組んでいかなければならない、という決意を新たにして始まった年であったと思います。

これまで、合併当時の期待や願い、想いを受け、合併後10年間で取り組むべきとした多くのことが実現し、10の市町村が思い描いていたまちづくりは着実に進んできました。今年はそれが更に形になるとともに、

将来を見据え、これからの１０年に向けて、新たにやるべきことについて
も時機を逸することなく始めることができました。

この１年間を振り返りますと、今年はやはり、６年半ぶりにＪＲ名松線
が全線復旧したことは、地元の皆さんはもとより、多くの市民の皆さんに
とって、そして私たちにとって本当に嬉しかったことではないでしょう
か。

３月２６日、待ちに待った１番列車の出発を多くの市民や関係者の方
が祝福をいたしました。当日は約２，１４０人の方がご利用され、運行
再開後、半年間での利用者数は、延べ４０，０００人に上りました。特に
ゴールデンウィークの１０日間は、５，０１５人（津市調べ）ものご利用
があり、ホームに人が溢れ返るほどでした。これは、復旧後の利用促進に
向けて、市では無料の臨時バスやレンタサイクルといった下車後の交通
アクセスに美杉が持つ素晴らしい地域資源を結び付け、また、地元の関係
団体の皆さんが一生懸命おもてなしの心で、再び鉄路で繋がった美杉地
域に誇りを持って数多くのイベントを開催されるなど、地域の誇りをも
う一度取り戻すことができた、地域の魅力を再確認できた出来事だった
と思います。

また、合併後これまで進めてきた多くのプロジェクトが形になった、実
を結んだ年になりました。

合併２０事業の一つでもあります、とことめの里一志の周辺整備では、

老朽化が激しかった白山消防署一志分署を、市有地を活用して新たに移転整備し、３月２６日から運用を開始して地域防災機能の強化を図ることができました。

４大プロジェクトで言えば、新最終処分場・リサイクルセンターは、４月１日から供用開始しました。新最終処分場は、環境に最大限配慮した新時代に相応しい施設となり、リサイクルセンターについても多種多様なごみへの対応が可能となりました。

また、平成１５年に旧河芸町が国に要望したことから始まった「道の駅津かわげ」についても、市民の皆さんの声を受け、４月２３日にオープンすることが出来ました。オープンから３か月間で来駅者数は５０万人を超え、大変な賑わいを見せています。この５０万人という数字ですが、平成２８年に新たに開駅した１０の道の駅に対し、来駅者数の調査を行ったところ、第２位は２５万人でしたから、その２倍以上という断トツで全国トップの数字になりました。

さらに、雲出伊倉津には、災害時に市内の被災地域へ物資を配送する防災拠点として、津市防災物流施設が完成しました。平常時にはコミュニティセンターとして利用できる施設の３階、そして屋上は、津波発生時には、１，０８０人の方が一時避難することが可能となりました。

美杉町下之川には、下之川住民交流センターが完成し、集会機能、温浴機能を備えた地域住民が気軽に集える憩いの場としてご利用いただい

います。また、安濃ダムに農業用水を活用した小水力発電所が整備され、津市のなかで、水の力を利用した新たな再生可能エネルギーへの取組も始まりました。

このような施設の整備以外にも、今年は、津市の将来を担う子どもたちのための新たな取組も始めました。

子育てしやすいまちを目指すため、4月から保育園の「育休退園」を廃止しました。これにより、保護者が育児休業を取得した場合でも、子どもの年齢に関わらず保育所を継続して利用できるようになりました。

9月からは、中学生の通院費を新たに助成対象に加え、乳幼児から中学生までの医療費無料化を実現しました。保護者の経済的な負担を軽減し、子どもたちの健やかな成長をサポートする体制を整えることができました。

また、財政に関して言えば、合併当時は104億円であった財政調整基金は、平成27年度決算時において189億円にまで積み増すことができました。財政指標を見てみると、例えば、実質公債費比率は、平成17年度決算は15.2%であったものが、平成27年度決算では8.3%となりました。将来負担比率は、平成19年度決算で120%であったものが、平成27年度決算では41.7%と、いずれも合併時から大幅に改善されています。このように、津市の財政運営は、取り組むべき事業を進め

ながら、着実に健全な財政基盤を同時に築いていくという非常に難しい課題をこの１０年間は出来たと思います。さらに、今年度からは、１２年ぶりにモーターボート競走事業特別会計から一般会計への繰入れも復活させました。

行政運営に関して言えば、職員数は、合併前の３，１１９人から当初の目標より２年前倒しとなる平成２６年４月に２，５００人体制を実現しました。合併の効果を最大限に活かし、重複する業務を統合するなど、行政の簡素化、効率化に努めてきました。

しかしながら、職員数の削減が市民サービスの低下を招くことがあってはなりません。今年４月１日での職員数は２，５０９人となっています。職員の定数の考え方の見直しを行い、公益法人への派遣や消防初任研修などに従事している職員を定数外とするなど、質の高い行政サービスを提供する体制を築いてきました。

その体制のもと、効率的に業務を進め、そして、それぞれが持つ個々の能力を最大限に発揮するとともに、市民のために何ができるかという気持ちを持ちを常に持って、日々業務に取り組んでいただいています。

このような状況のなかで、皆さんの仕事に向き合う姿勢も随分変わってきたと感じています。未だ一部の職員による公金の使い込みなど、こういった不祥事が起こるのは本当に残念で市民の皆さんに申し訳ないと思

いますが、大多数の職員は職員行動規範に沿って、津市職員として「市民の皆様のお役に立てるよう頑張ろう」という心持ちで行動してくれています。平成27年3月に皆さんの手で作られた行動規範に掲げた思いを、私としては常に全ての職員がしっかりと持ち続けてほしいと思います。

皆さん自らが作り上げた行動規範に掲げた思いを私は信じています。皆さんの決意は、市民の皆さんにも必ず伝わるだろうし、津市の職員は変わったなあと、きっと感じていただける、そのような津市にしていきたいと思います。

合併後10年を締めくくる意味も込めて、少し総括的に今年1年を振り返りましたが、このようなお話しをすることができたのも、職員の皆さんが市民のためにしっかりと仕事をしていただいたからであり、より強固で堂々たる組織としての力が発揮されたからだと思っています。これからも、市民の幸せを願い、市民の幸せを実現するため、これからの10年に向けてしっかりと歩みを続けていきましょう。

最後になりますが、今年もあとわずかになりました。一年間、頑張っていたご自身を^{いたわ}り、心身をゆっくりと休めてください。年末年始の休暇期間中にもかかわらず、職務に従事をしていただく職員の皆さんは誠にご苦労さまですが、健康には十分気を付けていただきますようよろしくお願いいたします。

職員の皆さん、そして、ご家族にとって、来年が本年にも増してより良

い年となりますことをお祈りいたします。

一年間、本当に、ありがとうございました。